

JSCA九州 1-版

発行・日本建築構造技術者協会九州支部
 TEL 092-406-2905 / FAX 092-409-2934
 Web Site : <https://jscakyushu.jp/>
 E-mail : info@jscakyushu.jp

2025年巻頭言



2025年1月 JSCA九州支部長 今林 光秀

JSCA九州支部会員ならびに賛助会の皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2024年は元日の能登半島地震に始まり8月には日向灘を震源とする地震があり南海トラフ地震臨時情報が発令され、我々構造技術者にとっては緊張感の中で過ごした1年でした。日本にいる以上は大地震のリスクを常に抱えており、我々構造技術者の使命は重大です。能登半島地震の復興も未だ道半ばであり、大地震後の建物継続使用を見据えた構造設計が求められています。これを実現するJSCA性能設計は構造性能を発注者と共に創り上げていくシステムであり、会員は性能設計を実践して安心・安全に貢献する職能の持ち主です。柱や梁の鉛直支持部材に大地震時の損傷を許容してその靱性に頼った現行の設計手法では大地震後の建物継続使用は実現できず、性能を高める構造付加価値がこれからは必要です。良識ある構造技術者として、**ありたい姿とあるべき姿**をこれからも追及していきたいです。

さて、建築構造界にとっての2025年そしてこれからのを考えます。人口減少にある日本では2030年問題が危機感として捉えられており、2030年からの10年間で生産年齢人口が約1000万人（15%弱）減少と推計されています。2025年からの5年間で変革のラストチャンスであると政府の骨太方針2024でも重大な危機感が訴えられています。人口が減れば新築は減るはずで、結果として設計も減ると考えるのが普通です。残念ながら構造技術者も減っていくのかも知れません。しかし、この建築構造の業界が無くなるには私には思えません。如何にして魅力ある正しい構造技術者として生き残っていけるか？

ではないでしょうか。そのためには、**付加価値と差別化**を提案し実現する構造技術者であるべきと私は考えます。これまで順調だったからこの先も上手く行くと言う保証はなく、時代は急速に変わります。これまで通りの事をやっているだけでは、気づいたら時代に取り残されてしまうかもです。上述したJSCA性能設計をはじめとして、若者の手本となるべき我々こそが新しい時代に向かって変化を恐れずチャレンジし続けることが大切であると私は考えます。その結果、次世代を担う若者達が新たなイノベーションを起こし建築構造界を高めるのだと思います。

最後になりましたが、今年5月の支部総会をもって6年間の支部長の任を卒業することとさせていただきます。JSCA九州支部の将来への架け橋となるべく、私なりに**かかわりを強く**微力ながら尽力してきたつもりです。幸いにも九州支部では志ある次世代の技術者たちが数多く活躍しています。新しい支部長を皆で盛り上げて（私も一兵卒として）さらに飛躍する2025年となることを祈ります。皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年を迎えて



副支部長 重松 正幸

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様、このお正月はいかがお過ごしだったでしょうか。JSCAに入会して約20年にわたり、九州支部での活動を通じて得た経験を改めて振り返る機会を持ちました。

2006年にJSCAへ入会して以来、青年部会、支部事務局、そして現在の副支部長という立場で、九州各県の会員の皆様との交流促進や、技術力向上のためのさまざまな企画・運営に携わってまいりました。この経験を通じて、地域社会の発展において技術者の確保と育成がいかに重要であるかを実感しています。特に、人口減少や高齢化が進む中、地方での技術者不足という課題に対し、JSCA九州支部が担う役割の重要性が一層高まっています。

本年は、これまでの経験をさらに活かしながら、若手技術者の育成や建築構造分野の発展に尽力するとともに、会員の皆様が交流し学び合える場を一層充実させていきたいと考えています。また、賛助会員の皆様との交流機会も増やしていきたいと考えています。各賛助会員企業による展示や講習会、見学会を通じて、参加された会員との意見交換や技術情報の共有が進むことで、支部全体の活性化と地域社会への貢献がさらに広がることを期待しています。

皆様の健康とより一層のご活躍を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



副支部長 木村 正人

JSCA九州支部会員の皆様、賛助会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は、年始から能登半島地震、旅客機衝突事故、小倉火災が相次ぎ、8月には日向灘地震がありました。また、今年は阪神淡路大震災から30年の節目の年です。災害・事故はいつ発生するか予知できません。引き続き、安全で安心な社会づくりを推進する一助をJSCA九州が担えればと考えています。

昨秋、将来を担う若い学生（構造技術者）との交流活性化を目的の一つとし、福岡大学で構造デザイン交流会が開催することができました。今後も運営内容の改善を図りながら、充実した交流会にしていきましょう。また、今年は大阪・関西万博が開催されます。展示内容も気になりますが、パビリオン自体の構造計画も必見ではないかと考えています。

昨年からの時間外労働時間の上限制限や高齢化による働き手不足により、個人の働き方や設計業務のやり方に大きな変化が始まっています。巳年は、発展や飛躍が期待されるそうです。変化にとんだ時代ですが、皆様と連携し、これまで以上にJSCA九州の周知や学生が構造設計に魅力を感じられるよう情報提供を進めていきたいと考えています。

今年も皆様のご活躍ご健勝をお祈りいたします。どうぞ宜しくお願い致します。

技術委員会



技術委員長
(有)福岡構造 吉村 泰広

新年あけましておめでとうございます。

2025 年を迎え 2019 年に九州支部技術委員長に就任して 6 年になります。1 月で 64 歳になり、孫も 6 人を抱え、すっかりお爺ちゃんになりました。今期を以て退任し後進に道を譲ります。2025 年 4 月 23 日（水）の技術委員会合同部会では新体制を報告する予定です。

これまでの 6 年間を振り返ると、2019 年は韓国免震制振協会創立 15 周年記念式典へ九州支部からパネリストとしての 3 名を含め計 6 名が参加しソウル大学、釜山大学の教授達との交流を深めました。その後も親交を深める予定でしたがコロナ禍に入り途絶えてしまったのが心残りです。2020 年は JSCA 本部・九州支部合同技術委員会（九州場所）を開催しました。毎年全国各支部持回りで開催されており近々にまた九州で開催される予定です。2021 年は BIM-WG 新設、2022 年は福岡県構造特記仕様書作成補助と JSCA 本部や福岡建築構造設計事務所協会、九州免震普及協会などの他協会との連携強化、2023 年は BIM-WG をプログラム部会への昇格、2024 年は JSCA 本部との交流を深めるため年間延べ 7 名の本部技術委員会への派遣と福岡県構造特記仕様書改訂補助・福岡県 RC 造構造標準図作成補助などを行いました。

昨年のご挨拶で「九州から何が発信できるか」「九州から全国へ、世界へ」と書きました。今年は「若者に魅力ある構造設計業界へ」を加えたいと思っています。少子化や近い将来の AI 化を見据えて有能な学生が志望する魅力ある業界に出来れば幸いです。

私は今期で退任しますが、新技术委員長を迎えて新たな九州支部技術委員会により多様な課題に向き合っていただけると信じています。

退任後も微力ながら JSCA 九州支部の発展に勤めてまいります。

本年もよろしくお願ひします。

設計部会



設計部会長
 (株)織本構造設計 都筑 清

新年あけましておめでとうございます。昨年の活動は、まず春に「建築関係者にとってのSDGs」講演を開催しました。川久保俊先生（現慶応大教授）のお話は大変興味深く、参加された皆様からも好評でしたのでまた折を見て第2段を検討したいと思います。次に、応答制御設計部会へ協力した時刻歴応答解析勉強会は6月・11月と開催されましたが、申込枠がすぐ埋まってしまうほどの人気でした。また12月に「監理に関する勉強会 鉄骨造編」と称して鉄骨系部会と共催で勉強会を開催しました。昨今各所で品質管理の問題を耳にすることが増えてきましたが、品質を確保するためには構造設計者が積極的に品質管理に関与することも大切と考えます。勉強会中は音声トラブルなどもありましたが、この監理勉強会はシリーズ化して今年も開催予定です。以上、昨年も多くの方に講習会にご参加頂きました。講習会中はバタバタで碌にご参加の方へ挨拶もできず申し訳ありません。この場を借りてお礼申し上げます。

設計部会は新たになでしこ会の小林晃子さんを迎え、4人体制となりました。さらに充実した活動を続けていきますので、何卒ご支援をよろしくお願ひします。

応答制御設計部会



応答制御設計部会長
 (株)大林組 堂地 利弘

皆様、新年あけましておめでとうございます。2017年より活動開始した応答制御設計部会では、免震構造や制振構造を、特殊なものとするのではなく、一般化することを目標に活動を始め、9年目を向かえます。昨年、上野前部会長からその意思を引き継ぎ、部会長を拝命いたしました。

昨年は、応答制御設計部会と設計部会の主催で3つの時刻歴応答解析勉強会を1台/一人のPCを用いて対面開催しました。

- ① 2023年度第2回：実践編（2月）は、『SS21/IsolationPRO』を用いた告示免震、『3D・DynamicPRO』を用いた時刻歴応答解析（共催：有限会社テクノユニオン）
- ② 2024年度第1回：基礎編（6月）は、時刻歴応答解析の基本（減衰、モード解析、地震波の影響など）を座学で学び、エクセルを用いた等価線形法と時刻歴応答解析の比較検証（共催：株式会社構造システム）
- ③ 2024年度第2回：初級編（11月）は、等価線形法による耐震、免震、制振構造モデルの考え方（共催：福岡建築構造設計事務所協会、株式会社構造システム）

また、「住まいるフェア福岡2024」（10月）に協賛し、免震装置メーカー「THK株式会社」の免震体験車の試乗会を行いました。多くのみなさまに、「耐震構造」「免震構造」の建物の揺れの違いを体験していただき、例年通り、言葉だけでは伝わりにくい建物の耐震性能を感じていただくよい機会になったと思います。本年も皆様のご理解とご協力、どうぞ宜しくお願ひ致します。

基礎地盤系部会



基礎地盤系部会長
(株)梓設計

蒔島 健夫

新年あけましておめでとうございます。

2025年は『巳年』です。脱皮をする蛇のイメージから『巳年』は「復活と再生」の年とも言われています。本年も能登半島の「復活と再生」が一日も早く進むことを願います。

さて、基礎地盤系部会では、昨年まで主として行ってきました「建築構造設計者のための地盤調査ハンドブック」の講習会も九州をひとつお回り廻ることができ、一定の成果をあげることができました。その中で、「小規模建物を対象とした地盤調査」に対する質問が非常に多くありました。そこで、本部会では今年のテーマとして「小規模建物を対象とした地盤調査」について取り上げたいと思います。また、「各種基礎構造の設計と監理」という数年前に行ったテーマを復活させ、新たな形で勉強会を行う予定です。今年は、この2テーマを主として企画・活動していきます。皆様の参加をお待ちしています。

本年も、基礎・地盤に関する様々な情報を皆様に届けていきたいと思ひます。宜しくお願い致します。

鉄筋コンクリート系部会



鉄筋コンクリート系部会長
(株)あい設計

前田 隆志

新年あけましておめでとうございます。

今年の干支の巳年は、脱皮し力強く成長する年と言われ、重ねてきた努力が物事を安定させる縁起の良い年と言われています。皆様更なる飛躍の年になるよう進んでゆきましょう。

鉄筋コンクリート系部会と致しましては、前部会長の小林様から体制を継承され、新体制となり1年が経ちましたが、たくさんの方々から多くのご協力を頂き、「鉄筋トラス付デッキ工場見学・勉強会」、「機械式鉄筋定着工法勉強会」を無事開催し、「(仮称)福岡中央病院建替計画見学会」を共催させて頂くなど、少しずつですが活動の幅を広げさせて頂いています。皆様の暖かいお力添えに感謝致します。今年は毎年度開催している「配筋標準図勉強会」を地区会の皆様と共催で開催する予定となっています。

今後も鉄筋コンクリート造の最新情報や知見の共有化を図り、若手技術者・ベテラン技術者を問わず、技術レベルの底上げを図って参りたいと考えています。

本年も引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

鉄骨系部会



鉄骨系部会長
鹿島建設(株) 井手 文雄

あけましておめでとうございます。

昨年は新年早々、能登半島地震が発生しました。被災された方々の一日でも早い復興をお祈り申し上げます。

地震が多い国とは言え、まさか正月に大地震が発生するとは思ってもよらず...でした。また、全国各地で多くの豪雨災害も発生しており、日ごろから災害に対して備えておく必要性をあらためて考えさせられました。

今年巳年です。蛇は苦手という方も多いですが（私も苦手です）、多くの文明で神聖な生き物として扱われてきました。強い生命力・豊穡の象徴とされ、新しい時代が始まる起点となる年だそうです。また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年ともいわれるようです。

当部会では、一昨年から青年部会・鋼構造サブネットワークと協同して鉄骨ディテール集改定を進めていますが、そろそろ「実を結」んでいきたいと思えます。

本年も何卒宜しく願い申し上げます。

木質系部会



木質系部会長
(株)川崎構造設計 宮崎 大介

皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は、6月に沖縄地区会主催の実務者（大成建設株式会社 坂口裕美氏）講演会&熱き学生によるディスカッションに参加し、貴重な経験をさせて頂きました。9月には、プレカット業者である福岡久保産業株式会社 小野日出男氏をパネリストとしてお招きし、座談会を行いました。設計側とプレカット側それぞれの疑問点等を議論できる良い機会を設けられたかと思えます。11月には中・大規模木造建築物普及シンポジウム～接着重ね材とGIR接合に関する最新の知見と今後の展望～を開催できました。シンポジウムでは、九州大学 佐藤利昭准教授及び株式会社織本構造設計九州支所 田上誠氏に講演頂き、福岡県建築士会会長 鮎川透氏にモデレータを務めて頂き会場を巻き込んだのパネルディスカッションを行いました。接着重ね材やGIR接合についての最新情報を皆様に提供できたかと思えます。また、2025年2月には長崎地区会主催の勉強会にて2025年4月に施行される法改正に伴う木質構造について、講演を行う予定であります。これらの活動にご協力頂いている皆様に感謝申し上げます。本年も何卒宜しく願い致します。

特殊構法部会



特殊構法部会長
ピーエス・コンストラクション(株) 石井 孝幸

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えの事と思います。

昨年は、2月2日に「-実務に役立つ-若手技術者のためのプレストレストコンクリート建築設計・施工勉強会」、8月23日に熊本地区会で「-実務に役立つ-プレストレストコンクリート建築設計・施工勉強会」および12月4日に応答制御設計部会・鉄筋コンクリート系部会と合同で「(仮称)福岡中央病院建替計画 現場見学会」を開催できました。多くの方にご参加いただきありがとうございました。

今年は42番目の干支で「乙巳(きのと・み)」の年です。乙巳はこれまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆していると言われていています。特殊構法部会は、「他の部会に属さない特殊な構法、構造をテーマに広げる」ための努力と準備をこれまで以上に頑張りたいと思います。皆さまの要望や意見などをお聞かせ下さい。

本年も引き続き特殊構法部会運営に関しましてご支援をよろしく願いいたします。

耐震改修部会



耐震改修部会長
(株)香月設計 香月 博己

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は正月早々に能登地震がおこり現地の方は甚大な被害を受け、私もきつく心痛めたのを覚えています。又、物価高騰の煽りを受け雇用賃金上昇もうたわれていましたが、依然として経済回復にはあまり反映されていないと実感しています。

耐震改修部会では、11月からJSCA本部の耐震診断補強技術部会に委員として参加し、2月の全国向けWEB開催予定の東京都緊急輸送道路沿道関連講習会に向け、資料編集等を協力しております。

今年はJSCA本部の耐震診断補強技術部会の参加、東京都緊急輸送道路沿道関連講習会の資料編集等の協力、それに加え、耐震改修、リニューアル等だけではなく企業、賛助会、他部会との講習会・勉強会・現場見学会の機会があれば開催したいと思っておりますので、皆様のご協力の程よろしく願いいたします。

プログラム部会



プログラム部会長
(株)アーキスト 今井 秀明

新年あけましておめでとうございます。プログラム部会が常設委員会として発足して2年目となりました。昨年は皆様のご協力により活発な活動が出来ましたこと感謝申し上げます。仕事が紙媒体からデジタル化していく昨今、年末年始の伝統行事がより一層大切に思えてきます。蕎麦打ち、餅搗き、しめ縄づくり等々可能な限り自分で行い子供たちへ伝える事も建築を伝える事と同等に大切なことだと感じています。さて、プログラム部会では今年も昨年にも増して活動を考えております。BIM図面審査が2026年春に予定されていることもありより一層の利用促進を図り、加えて今年4月1日に施行される建築基準法改正により省エネ・4号特例見直し・構造関係既定の見直しなど設計のブラッシュアップも求められており本部会でも皆様のご設計監理業務の一助になればと取り組んでまいります。生成AIやRPAなど自動化できる業務も年々増えていますがデザインを具現化する設計の楽しさ面白さを忘れず本年も活動したいと思います。皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

シニアアドバイザー部会



シニアアドバイザー部会長
(有)ストリームデザイン 原 英基

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

シニアアドバイザー部会、昨年度は「地区会に出かけて、他団体も含めた若手との交流を通してJSCAの広報活動を行う」ことを目標に掲げていました。

年度内に佐賀と長崎に伺うことは決まりましたので、来てもらってよかったと思っていただけるようにしたいと考えているところです。

昨年度は能登半島地震に始まり日向灘地震、台風10号と日本各地で大災害が頻発しました。いつもどこかで災害が発生し、災害被害者が生活再建もままならないうちにまた次の災害に見舞われるなど大変厳しい状況が発生しています。木造住宅の耐震化、災害対応の迅速化などは国主導で早急に体制整備する必要があると感じます。実務を担うJSCAからも積極的な提言ができればよいのではないのでしょうか。

シニアは本年もゆっくと頑張ります。

構造デザイン部会



構造デザイン部会長
(株)久米設計 伊藤 淳

新年あけましておめでとうございます。

昨年は福岡大学での九州構造デザイン交流会を無事に開催することが出来ました。これは福岡大学の堺先生、田中先生はじめ、各大学・専門学校の先生方、また九州支部の皆さんの多大なご協力の賜物です。改めて、ありがとうございました。

初開催ということ言い訳ではありますが、様々な改善すべき部分が見えてきており、それらを今後修正しながら、より良い会にしていきたいと考えています。

さて、今年は鹿児島での開催に向けて、昨年末より徐々に動き出しております。遠隔地での開催で昨年よりさらにハードルが上がりますが、構造デザイン部会 WG メンバーで力を合わせて成功へ向けて努力しますので、引き続きご協力の程よろしく願いいたします。

青年部会



青年部会長
(有)福岡構造 安達 亮平

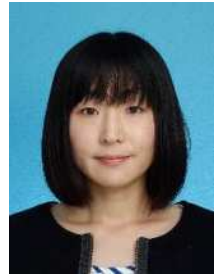
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は元旦の能登半島地震に始まり、8月には九州の宮崎県にほど近い日向灘でも地震が発生、初めての南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されるなど、改めて地震はどこで発生するかわからない恐ろしい災害であることを再認識すると共に、私たち構造設計者の役割の重要さと責任の重さを痛感する1年でした。被災された方々には心からのお見舞いを申し上げます。

青年部会では年4回の活動を基本としておりますが、昨年は3月に鉄構工業会との意見交換会、6月に構造デザイン勉強会、11月に熊本方面見学会、12月に熱応力と現場監理に関する座談会を開催しました。今年も若手の技術研鑽と交流が図れる場となるよう、自由に楽しく活動したいと思います。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

なでしこ会



なでしこ部会長
(有)中野構造設計 松田 千恵

新年あけましておめでとうございます。

2024年は、月例のミーティングに加え、9月にはCLT建物見学、12月には鉄骨柱脚工場見学会を実施しました。どちらのイベントも多くの会員にご参加いただき、特に若手会員の積極的な参加が見られました。これにより、技術的な知見の共有や会員同士の交流がさらに深まり、なでしこ会の活動が一層充実したものになったと感じています。

また、近年の社会における多様性の重要性を踏まえ、女性のみでの活動にとどまらず、多様な視点や価値観を取り入れながら、活動の幅を広げています。日々の取り組みを通じて、会員同士が技術を磨き合うだけでなく、多様性を尊重し合いながら、より良い環境づくりを進めています。

2025年も、会員増強を図るとともに、各自の自己研鑽を支える活動を積極的に行い、さらなる知識や人脈の拡大を目指します。本年も皆様のご協力とご支援に感謝しながら、『共感力』を大切になでしこ会らしい活動を続けてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

広報委員会



広報委員長
オリエンタル白石(株) 福田 顕議

JSCA九州支部会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

毎年恒例の新春のご挨拶とお礼になりますが、まずは、役員の皆様、地区会幹事の皆様、ご多忙の中、新年早々の執筆にご協力いただき感謝申し上げます。広報委員会の本年最初の活動として、この「新春号」を編集・配信させていただきました。広報という名の通り、2025年もJSCA九州支部の魅力や、会員の皆様や一般の方々へ、広くわかりやすくお伝えしていく所存です。

昨年は、学生発表も含めた「JSCA九州支部デザイン交流会」が開催されるなど、支部活動が活発に行われました。今年も各種講習会や見学会など、さまざまなイベントが企画される予定です。アナウンスしたい情報がございましたら、事務局または広報委員会までご一報ください。一人でも多くの方にご参加いただけるよう、広報委員会として微力ながらお手伝いさせていただきます。

また、昨年末には支部ホームページをリニューアルいたしました。掲載希望の魅力的な建築物の写真や、ご意見・ご感想などがございましたら、ぜひお寄せください。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局



事務局長
エス・エー・アイ構造設計㈱ 都市 毅

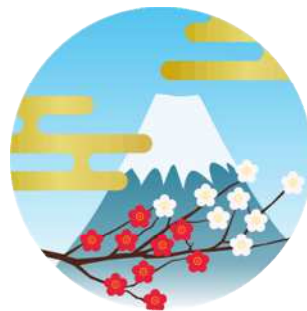
新年あけましておめでとうございます。

昨年は皆様のお力添えをいただき、充実した一年を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、元日の能登半島地震に始まり、8月には南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されました。改めて、地震が多い国に住んでいることを再認識するとともに、建築構造設計に携わる者としてその責任の重さを痛感した一年でもありました。

さて、JSCA九州支部の活動に目を向けますと、勉強会や講演会などの企画・実施が非常に活発に行われました。コロナ禍以前と遜色ないほど積極的に取り組んでいただけていることは、大変喜ばしい限りです。業務の傍らでの準備などご負担も多いかと思いますが、事務局で対応可能なことは引き続き協力させていただきますので、JSCAの活動がより多くの方々に広く認知されるよう、有益な情報を発信していただければ幸いです。

皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。



地区会



北九州地区会幹事

YOU 設計株式会社

猪又 忠彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年より地区幹事を務めております、猪又忠彦です。北九州地区会の昨年の活動といたしましては、北九州構造協会や福岡県建築士事務所協会北九州支部との共催により、勉強会を開催いたしました。また、北九州市役所ならびに北九州建築六団体（北九州建築設計監理協会、JSCA九州支部北九州地区会、北九州設備設計監理協会、福岡県建築士会北九州地域会、日本建築家協会九州支部北福岡地域会、福岡県建築士事務所協会北九州支部）との意見交換会を通じて、行政対応の円滑化に向けた議論を行いました。

本年も北九州地区会として、関係各所の皆さまと連携しながら、より良いまちづくりに貢献してまいりたいと存じます。どうぞ変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



佐賀地区会幹事

(株)石橋建築事務所

今村 敬

新年あけましておめでとうございます。

昨年は地区会員の皆さんや JSCA九州支部関係部会の皆さんにご協力いただき、地区会としては多くの情報発信する機会が得られました。ありがとうございました。また、比較的静かな年明けを迎えることができたことに個人的には安堵しているところです。

例年のことですが、構造設計者を取りまく環境の変化は留まることなく続いています。法改正や規準改定、解析ソフトウェアや BIM ソフトウェアの発展など、フォローすべきと思われる事柄が目白押しとの印象です。このような状況も踏まえ地区会として、できること／求められること、を意識した活動に取り組みたいと考えています。

本年もよろしくお願いたします。



長崎地区会幹事
(株)システムニジュウイチ 池田 宜弘

皆様、あけましておめでとうございます。

昨年4月に地区会幹事を拝命し、新しい役員体制での地区会活動が始まりました。7月の大分での九州支部役員会・講演会には長崎地区から多数参加させていただいて他の地区会との親睦を深めることができ、翌日には大分県内の建物を巡り意匠・構造ともに興味深くとても有意義な見学会となりました。11月には佐賀地区で地盤調査ハンドブック講習会・懇親会を初めて合同開催することができたので、今後も交流を広げて活動していきたいと考えています。

今年2月の佐世保例会では木質系部会とシニアアドバイザーから講師をお招きして経験豊富な構造技術者の講習会を予定しています。そして7月にはコロナ禍を挟んで10年ぶりに「九州支部役員会 in 長崎」が開催されます。2025年も長崎地区会会員は一丸となって取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

九州支部会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



熊本地区会幹事
(株)ビルド総合設計 谷口 規子

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新春のご祝詞を申し上げます。昨年を振り返りますと、1月の能登半島地震、9月の能登半島豪雨災害が思い出されます。ニュースで耳にするたび、被災地の復興を願うことに加え、熊本地震も同時に思い出し、その度に構造技術者としての大きな使命感を感じます。

昨年の熊本地区会の活動は、地区総会、講習会2回、大阪万博現場見学会1回と忘年会を企画しました。各活動では、多方面の方々にお世話になり、大変ありがとうございました。この場を借りて、お礼申し上げます。

大阪万博現場見学会では、万博の象徴とも言える「リング」を見学しました。リングが3つの工区に分けられ、共同企業体の各社で接合部の設計方法が違っていると知り（本見学会は1工区の限定見学）今年も見学会を企画し“お好み焼き”を食べながら会員の皆様と3工区の接合部談義を楽しみたいと考えています。

年末に新入会員を2名迎え、2024年はとても良い締めくくりになりました。本年も楽しく研鑽を積める活動ができるよう、地区会として取り組んでいきたいと思っておりますので、ご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。



大分地区会幹事
しげる設計一級建築士事務所 首藤 茂

新年明けましておめでとうございます。

大分地区幹事になって2年たちました。去年は皆さんのおかげで、JSCA in 大分を無事に終了させることができ、本当にありがとうございました。

in 大分終了後では講習会、現場見学、忘年会と2ヶ月に1回はみんなで集まっているいろいろと語り合ったのでした。学会のRC2024の講習会がアクロスで12/24にありました。いろいろな知見が広がって、よかったです。

JSCAに一人でも多く入会してくれますように、情報発信をしていくつもりです
本年もよろしくお祈いします。



宮崎地区会幹事
WADA建築研究所 和田 昌樹

新年、明けましておめでとうございます。

今年は、積極的に地区幹事らしい活動もあまり出来ずお恥ずかしい限りでしたが、どうぞ宜しくお願い致します。(皆様への挨拶も十分に出来ずに申し訳ございません)

私は、普通科高校を卒業し、職業訓練大学校を出て構造設計の仕事に就きました。どちらかと言う理系体質で無く、要領も悪い方なので、高校の物理では赤点ギリギリを取り先生からは「物理界から去れ！」と言われた程です。←今じゃモラハラですね。なので、今こうして構造設計に携われるのも先生方や父のおかげと思い大変感謝しております。近年、狭い宮崎でも構造設計者が減る傾向(引退・お亡くなり)で構造設計してくれる人が少ない問題が生じています。その背景もあって物理的に限界量(笑)と感じるまでご依頼を受けるのですが、お断りする時は非常に申し訳ない気持ちで一杯です。この様な事からも、「あなたの街の構造屋さん」のような気軽に相談・業務委託できる構造設計者も重要な存在ではないかと私は思います。(なんか定食屋みたいな表現ですみません)

今年も幹事として皆様と会って楽しくお話が出来れば幸いです。どうぞお気軽にお声掛け下さい。



鹿兒島地区会幹事

(株)リソー・エンジニアーズ 白坂 哲也

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様、新年をいかがお迎えでしょうか。

私は消防団に所属しており、年末年始は飲酒を我慢しております。年末年始は火事が多く、出動要請のあった年もあります。火災時には消防局(消防隊)が出動するからとはいえ、「うちの分団、団員みんな吞んでいて誰も出動できません。」ではまずいですし、恥ずかしい。何月であるとか何曜日であるかを選んで火災が発生する訳ではありません。

去年は、「地震も同じ」と改めて思ったところです。曜日や365日という概念は人間の設定した物で、地球の動き自体には何ら関係ありません。

また、日本の国土面積は約38万 k m^2 に対し地球の表面積は約5億 k m^2 。「日本の中のどこで地震が起こる確率が高く、どこは低い。」と言う確率論もあまり意味をなさないと考えます。

災害は「人知の及ばぬ事」と肝に銘じ、その中で「我々は何をすべきか？」を考えながら仕事をしている正月です。



沖縄地区会幹事

(株)国建 島袋 敦

新年あけましておめでとうございます。

去年は、①「首里城現場見学会」、②「東京理科大学・高橋治教授・講演会」、③「実務者講演会&熱き学生とのディスカッション」、④「パネルで見る構造デザインのプロセス」、⑤「私にとっての構造デザイン-建築x構造のおもしろさを語る会 in 沖縄」、⑥「地区会の構造デザイン発表会」と多様な取り組みを行うことができました。その概要は九州支部のHPに紹介しておりますので、是非ご覧ください。

イベントの数が多いとの声もありますが・・・「せっかくの機会を大切にしたい」という共通認識が地区会には根付いております。

なでしこ会部会長の松田様、木質部会部会長の宮崎様、講演会(③)への参加、協力ありがとうございました。支部長の今林様、講演会(③、⑤)のコーディネーターありがとうございました。お陰様で、いずれも大盛況となりました。今後も支部の皆様や他地区会の皆様の参加、協力をお願いする予定でございますので、本年も沖縄地区会を宜しく申し上げます。